

# 「対決でなく対話を」 平和の実現に向けて

多摩市立諏訪中学校 2年 山崎 遥

「対決でなく対話を」これは、今年の長崎平和祈念式典での言葉です。平和の実現に向け、社会全体でこの目標に取り組む必要があると思います。しかし、紛争や核での威嚇が絶えず、平和は遠いのが現状といえます。しかし、戦争による悲劇を繰り返さないために、今を生きる私達が平和の実現に取り組むべきです。

私は、丸木美術館に展示されている「原爆の図」を初めて視たとき、その残酷さに大きな衝撃を受け、目を背けたくくなりました。しかし、原爆の体験者は、「綺麗に描きすぎている」と感じた聞き、さらに大きな衝撃を受けました。

また、原爆の被害について調べると、長崎駅周辺では、住宅地が焼け野原となり、一瞬にして全てが失われた惨状を知りました。

これだけ大きな悲劇を生み出した原爆。ですが、2015年のNHKによる平和への意識調査では、広島、長崎の原爆投下の日、長崎の原爆投下の日を正しく知っていた人は、どちらも約3割と、かなり少ないと分かります。

「過去の苦しみなど忘れ去られつつあるようにみえます。私はその忘却を恐れます。忘却が新しい原爆肯定へと流れていくことを恐れます。」

これは、自身が原爆の被害に遭った谷口稜嘩さんの言葉です。平和に対する意識が薄れつつある現代に向けられた言葉のように感じられ、核の廃止の重要性が考えさせられます。

では、核廃絶への取り組みは行われているのでしょうか。

その1つが「G7広島サミット」であり、主要7カ国の首脳が集まり、平和、核廃絶への意識を再確認し、平和の実現に向けた大きな前進となりました。

一方、核廃絶に至ってはあまり前進しておらず、2020年の広島県による「核兵器を巡る世界の現状」についての調査では、世界には13,400発もの核兵器があり、その威力は広島、長崎に投下されたものの3,000倍にもなるそうです。これには、「核の傘」つまり、「核から身を守るために核を持つ」という現状が深く関係しています。

2015年のNHKによる平和への意識調査では、「核の傘」について、「核の保有と使用の是非」では、「保有も使用もすべきでない」と答えた人は約8割、「核の傘の必要性」では、「必要ない」と答えた人が約5割、「核軍縮の可能性」では、「完全に無くせる」または「大幅に減らせる」と答えた人は約1割ととても少数であり、「核の廃絶」についての意識はあっても、その実現の難しさが感じられます。

このように考えると、「核の廃絶」、「平和の実現」は、とても複雑で難しい問題だと分かります。しかし、今を生きる私達には、核や紛争の現状、歴史について学び、考え、伝えていき、「対決でなく対話を」ということが実現できる社会を創る責任があります。

皆さんも、「核の廃絶」、「平和の実現」について、周りの人と一緒に考えて見て下さい。